

高校サッカー県大会6日決勝 6年連続同カード

山田高猛攻向陵を17-0 野辺西優勢保ち東義撃破

第101回全国高校サッカー選手権県大会は3日、青森市のカクヒロケルプアスレチックスタジアム（カクスタ）で、準決勝を行った。100回大会を制覇し県大会25連覇中の「スーパーシード」青森山田は同日が初戦。FW小湊の4得点などで向陵に17-0と大勝した。県大会5年連続準優勝の野辺地西は主将のDF布施をけがで欠いたものの、試合開始早々にFW山端が先制点を挙げるなどして主導権を握り、東奥義塾を3-1で破った。6年連続同一カードとなる決勝は6日正午、カクスタでキックオフとなる。
（成田亮、斎藤義隆）



【東奥義塾—野辺地西】前半3分、先制ゴールを決めた野辺地西のFW山端⑬が両手を広げ喜びをアピール

主将不在も臨機応変

悲願の優勝を目指す野辺地西は、主将のDF布施をけがで欠きながらも危なげない試合運びで6年連続の決勝進出。三上監督は「ポジション変更を重ねながらだったが、それぞれ役割を果たしてくれた」と、流れの中で臨機応変に対応した選手たちをたたえた。

開始わずか3分、FW金津のゴール前の仕掛けからFW山端が詰めて先制。前半30分、左らのクロスに金津がフリーで合わせて追加点を挙げると、後半18分には交代出場のFW成田がタメ押しで3点目を決め、東奥義塾を突き放した。6年連続となる青森山田との決勝に向け、ゲームキャプテンを務めたMF村上は、「詰めで甘かった部分は修正し、決勝では自分たちがやってきたサッカーを存分に発揮する」と意気込んだ。
（成田亮）